

第五次総合計画方針別基本計画平成29年度実績等一覧(全67施策)(所属別評価 全72項目)

A : 計画通り (達成率75%以上)		46			
B : 概ね計画どおり (達成率75%未満～50%以上)		25			
C : あまり進んでいない (達成率50%未満～25%以上)		1			
D : 全く進んでいない (達成率25%未満)		0			
方向性	単位施策	施策の内容	平成29年度実績		
			実施した取組内容と成果及び課題	評価	担当課
1-1	自然とのふれあい居住	・レクリエーションや環境学習、保全活動などを通じて、豊かな自然にふれあい親しむ機会や場づくりを充実します。	【取組内容】 環境学習会(自然環境に関する情報提供や学習の機会を提供) ・夏休みエコ講座親子の水源地教室(15名参加) ・公共交通に親しむ(30名参加) ・カワゲラウォッチング(125名参加) ・太陽光で走るソーラーカー・UVビーズストラップ作り(12名参加) ・環境フェア2018開催(1000名参加) ・環境学習講師(東濃高、上之郷中、御嵩小、にて実施) ・みたけの森で環境学習(共和中、御嵩小実施) 保全活動(希少野生生物や在来種の保全) ・前沢湿地保全事業(県森林環境基金事業＝伐採除伐等) ・特定外来生物駆除(オオキンケイギク、ブラックバス(ほか)) ・町希少野生生物保護監視員によるパトロール 【成果】 環境学習に関しては、小中学校で展開する学習のほか、町が主体となって展開する環境学習にも多くの参加者があり、場づくりの成果は得られた。 【課題】 自然に対する関心をより深めていただけるよう学習内容を工夫し、参加者を増やすための周知方法についても検討する必要がある。	B	環境モデル都市推進室
		・豊かな自然環境を求めて御嵩町にやってくる移住者の受け入れを促します。	【取組内容】 昨年度に引き続き、タウンプロモーションを展開するため、JOIN主催の移住者相談イベント(東京ビッグサイト)及び中京圏で開催されたゆるキャラグランプリ2017(三重県長島町)でPR活動を行った。また、旅行代理店及び人材派遣会社が合同開催した移住希望者へのアプローチ手法に関するセミナーに出席し、移住希望者の心理を学んだ。 【成果】 衣食住に関する情報は移住希望者は後からでも手に入れることができるが、その前に御嵩町に一度は足を運んでもらい、体験してもらうことを優先する必要がある。交流人口や関係人口を増やしていくことが移住者を増やす近道であることを学んだ。 【課題】 PRだけでなく、現在計画が進められている農業体験型宿泊施設との連携や地元住民の方々との意思疎通を深める必要がある。	B	企画課
1-1	水辺環境と農地の保全	・希少野生生物について、専門家などの協力を得て、生息状況の調査と保全のための対策を進めます。	【取組内容】 ・前沢湿地保全事業(町生物環境アドバイザー及び岐阜大学教授の協力) ・特定外来生物の駆除作業(町生物環境アドバイザーの協力) ・町公共工事における環境配慮指針に基づく、事業実施箇所の希少野生生物の状況確認(町生物環境アドバイザー) 【成果】 上記の取組について、町生物環境アドバイザーと連携・協力をするなかで事業を進めてきた 【課題】 町生物環境アドバイザーは、長年活動されている方が多く、若返りが進んでいない。専門的知識も必要とするので、新たな人材発掘について取り組む必要がある。	B	環境モデル都市推進室
		・水辺環境や湿地、農業用ため池の保全を図ります。	【取組内容】 各水利組合等により、ため池等の草刈りが行われている。 【成果】 ため池等の適正管理がなされている。 【課題】 水利組合の構成員の高齢化により維持管理が困難になりつつあり、人材確保の手法について検討する必要がある。	B	農林課
		・農業の担い手確保や農地の集約により、農地の保全と遊休農地の解消を図ります。	【取組内容】 県、農協等を含めたサポートチームを結成し、新規就農者支援事業の対象者の圃場確認を行い、農業経営についての指導をしている。 【成果】 新規就農者に適切な指導や情報提供がなされており、今後の営農活動につなげていける体制づくりができた。 【課題】 さらなるサポートチームの体制強化と新規就農者の自立した農業経営へ向けた支援が必要である。	B	
1-1	里山や生態系の保全	・里山保全を行うボランティアへの参加促進や、企業との協働による森林づくり協定、森林経営信託により里山の保全を進めます。	【取組内容】 ・東濃高校(6月 5名)森林体験学習を開催 ・町青少年育成町民会議「里山と親しむ体験講座」(11、3月)体験学習を開催 ・みたけ里山活性化ワーキングチームによる行事開催(5月、7月、11月、3月 およそ約160人参加)、役場本庁舎玄関で「企業との協働による森林づくり」のPRを行った。 【成果】 ・新たに2企業の森と協定を締結した。 ・水土木隊に1名の新規入隊があった。 【課題】 水土木隊員の高齢化もあり、新規入隊者の確保について検討する必要がある。	A	農林課

方向性	単位施策	施策の内容	平成29年度実績		
			実施した取組内容と成果及び課題	評価	担当課
1-2	環境モデル都市の推進	・地域資源を最大限に活用し、低炭素化と持続的発展を両立する環境モデル都市の実現を図ります。	<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 森林経営信託方式による計画的な森林整備(可茂森林組合) 森林ボランティア(水土里隊)の活動による森林整備 企業との協働による森づくり(協定5社:岐阜造園、アサヒビール、東邦ガス、東海化成、十六銀行) <p>整備面積:森林経営信託 13.08ha、水土里隊 0.7ha、企業との協働 2.5ha</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災コミュニティセンターの太陽光発電設備(15kW)の運用を開始した。現在、町有施設9ヶ所に太陽光発電設備を導入済である。 <p>【成果】</p> <p>可茂森林組合による森林整備は計画通り進められている。企業との協働による森づくり実施事業者が増えたことが成果として上げられる。</p> <p>【課題】</p> <p>森林ボランティア(水土里隊)の高齢化に伴う担い手の減少及び森林整備にて伐採した枝葉などを木質バイオマス燃料として有効利用することや竹の有効利用が課題となっている。</p>	A	環境モデル都市推進室
1-2	循環型社会の形成	・生ごみの堆肥化をはじめとするごみ減量への取組を促進するとともに、環境にやさしい商品(グリーン製品)の利用拡大、ごみの分別収集の徹底などを推進し、3R(Reduce発生抑制、Reuse再使用、Recycle再生利用)に積極的に取り組みます。	<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ダンボールコンポスト、生ごみ処理機等の購入補助の継続・周知活動の継続を行った。 生活学校リサイクルステーション(隔月開催)、あゆみ館リサイクルステーション(月～金曜日常設)を開催し自治会やアパートなどによる資源物の分別や、子供会、PTA等の資源回収により、廃棄物の減量、再利用の推進を図った。 グリーンカーテン作成講座、作った作物を利用するエコクッキング教室、料理から出た生ごみを堆肥化するダンボールコンポスト講座を開催し3Rの取り組み周知を行った。 <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 補助金の啓発を継続した結果、設置型コンポスト8件、ダンボールコンポストセット7件、電動式等生ごみ処理機5件、剪定枝葉粉砕機2件の購入補助を行った。 分別資源収集の周知徹底を行った結果、前年度より、約37t程の可燃ごみ搬入量を削減することができた。 分別資源収集にて回収した廃食用油をバイオディーゼル燃料に精製し、住民環境課2tトラックの燃料として1,400ℓ使用した。 グリーンカーテン講座に22名、エコクッキング講座に24名、ダンボールコンポスト講座に9名の参加があった。 グリーンカーテン講座参加者に実証検分の協力を依頼し、広報にてデータを町民の方にお知らせし、グリーンカーテンの意義を理解していただくことが出来た。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年々補助申請件数が減少している。 <p>一般系の可燃ごみのさらなる減量化を図るために、剪定枝の資源化、再利用のシステム構築が課題となっている。</p>	A	住民環境課
		・ささゆりクリーンパークの効率的な運営を関係市町村と進めるとともに、南山一般廃棄物処分場の適正管理を進めます。	<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 南山一般廃棄物処分場に搬入希望の住民宅で、搬入物の検査確認を必ずおこない、不法廃棄物が搬入されることの無いよう管理している。 年に一回、岐阜県より、南山一般廃棄物処分場の管理検査が行われている。県職員と立ち合い、処分場の廃棄状況を確認し、年間投棄量の報告を行い、適正管理を行っている。 毎月、処分場の水質検査を行い、適正管理を行っている。 可茂管内市町村の廃棄物担当者間で、食品ロス問題・有害鳥獣の焼却問題の勉強会部会を発足し、ささゆりクリーンパークの効率的な運営について研究している。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 20件の投棄申請があり、すべて搬入物の検査を行い、不適正なものが搬入されないよう管理を行った。 10月2日に岐阜県環境課廃棄物対策課職員と町職員とで立入検査をおこない、適正管理を行った。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 管理人を常駐させていないため、柵をこえての浸入や、不法投棄を抑制することが困難である。 南山処分場の管理課である住民環境課に、処分場管理監督者を配置していないので、人事異動の都度、処分場管理監督者資格取得を行う必要がある。 	A	
		・森林の再生、公共交通の再生と次世代自動車への転換、家庭・事業所での削減活動、分散型エネルギーへのシフト、人づくり・場づくりの推進など、環境モデル都市行動計画に定める施策の具現化を着実に進めます。	<p>【取組内容】</p> <p>各施策の代表的な実績</p> <ul style="list-style-type: none"> 森林の再生＝上記(1-2 環境モデル都市の推進)に記載 公共交通の再生と次世代自動車への転換(名鉄広見線の活性化イベント実施や環境フェア2018で水素自動車の啓発) 家庭・事業所での削減活動(節電チャレンジ2017実施やJクレジット販売による企業のオフセット実施) 分散型エネルギーへのシフト＝上記(1-2 環境モデル都市の推進)に記載 人づくり・場づくりの推進(北海道下川町と本町生徒が森林体験学習、子ども交流ツアーにより交流を図った。また、島根県とも平成32年全国植樹祭にてお互いの木を交換して育てた苗を交換する取り組みを開始し、交流を深めている。) <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各課室にて展開する事業等により、環境モデル都市行動計画の進捗が順調に図られている。実績をまとめて内閣府に報告している(公表済)。今年度、内閣府に提出した資料上では、H27年度値で二酸化炭素(Co2)削減実績は2.7%の減であった。 下川町や島根県との交流を通じ、本町の児童が環境に関心を深めて取り組む姿が見られた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境モデル都市行動計画の目標としている温室効果ガスの削減(H30年度の削減率がH21年度比10%削減)の取り組みを再検討する必要がある。 	B	環境モデル都市推進室

方向性	単位施策	施策の内容	平成29年度実績		
			実施した取組内容と成果及び課題	評価	担当課
2-1	学校単位での人づくり	<p>・一人ひとりの子どもが、よりよい生活を生み出すことができる、生きる力を育むために、確かな学力を身に着ける指導を充実します。</p>	<p>【取組内容】 ・学力向上推進:教育委員会作成の事業構想図をもとに各校において推進計画を作成し、主題研究を中心に実践を進めている。どの学校も個に応じたきめ細かな指導に努め、「書くこと」「3つの見届ける」「学びあいの授業」「家庭学習、補充学習」「ICTの活用」「生活習慣の改善」にも力を入れて取り組んだ。 ・小中連携:3中学校区とともに3回の交流会を行い、授業改善、校種連携等に取り組んだ。 【成果】 小学校から中学校への滑らかな接続のために、互いに大切にしていくことを共通理解し実践していくことの重要性を再確認できた。29年度の拡大交流会は上之郷中学校で実施し、町内全教職員が集まり、上之郷中学校の1年間の実践を理解した。 【課題】 今後も各教師の指導案の点検、内容向上に向けて連携して取り組み、切磋琢磨を重ねていく必要がある。</p>	A	学校教育課
		<p>・子どもが健全に育ち学び続けることができるように、幼稚園・保育園・小学校・中学校が連携した教育を進めます。</p>	<p>【取組内容】 昨年度までの実績をもとに、合同教科部会や相互の全校研究会への参加、兼務の授業等を実施した。中学校区の職員は、学び方づくりや生き方づくり、体づくりの各部会に分かれ、それぞれの部会の取組に工夫を凝らしている。 【成果】 アプローチカリキュラムやスタートカリキュラムを作成することで幼稚園保育園から小学校への滑らかな接続のための実践を積み上げることができた。 【課題】 小中交流会が充実し、小中連携は年々深まっており、学力・体力の向上には各校区で工夫しながら成果を上げた。今後は高校との連携も一層取り組んでいく必要がある。</p>	A	
		<p>・グローバル化や情報化などの社会環境の急速な変化にも対応することができるように、外国語教育、ICT教育など特色ある教育を推進し、人材を育成します。</p>	<p>(外国語教育) 【取組内容】 ALTは日本語に精通しており、子どもたちの実態に応じた楽しい英語活動を実践した。あわせて外国語教育指導員を活用し、各校における外国語活動の充実にも努めた。 【成果】 ・7/28に小学生18名によるサマワーショップを実施し、東濃高校の外国籍生徒5名が参加協力した。 ・8/23の教育の集いでは、中学生3名による英語スピーチの発表会を実施した。 ・2名のALTは明るく穏やかな人柄で子どもたちからも慕われており、楽しい授業を展開している。外国語教育指導員の指導により、教師の授業力も伸びてきている。All Englishの授業が浸透しつつあり、一層コミュニケーション能力の向上を図っていく。 【課題】 今後は、東濃高校の外国籍生徒を外国語活動や英語の指導者として活用していきたい。</p> <p>(ICT教育) 【取組内容】 小学校3校のパソコン教室パソコンをクレードル型(タブレット端末)に更新した。 【成果】 合計で100台を更新導入。 教職員の研修を夏休みに実施し、使用方法を確認した。 【課題】 教科学習webシステムに対応していくとともに、授業での更なる活用を図っていく必要がある。 今後は、中学校のパソコン教室端末を更新する必要がある。</p>	A	
		<p>・地域と家庭と学校の連携を強化して、開かれた学校運営と地域における教育を進めます。</p>	<p>【取組内容】 ・ふるさとふれあい夢づくり事業を継続実施し、小学校では菊づくりや米づくり、大豆づくり等、地域の人材を活かしながら取り組んだ。 ・中学校では環境学習や職場体験などに取り組むとともに、地域行事へのボランティア参加など地域に働きかける活動を展開した。 【成果】 地域の特色を生かしながら発達段階に応じた体験活動を仕組み、地域の方々と関わることができた。 【課題】 今後は各学校下での地域特色を活用した教育の推進に努めていく必要がある。</p>	A	
2-1		<p>・地域とともに、子どもが地域にふれあう機会を充実し、ふるさとへの愛着を育むとともに、地域づくりに必要な豊かな発想を持つ人材を育成します。</p>	<p>【取組内容】 『愛の絵手紙&一行詩』の取り組みを行った。 【成果】 ・平成29年度は、合計で1,915点の応募があった。 ・平成28年度に引き続き1人1点の応募や審査方法などの見直しを行ったことで、作品の審査などをスムーズに行うことができた。また、夏休み中に伏見公民館・中公民館でも講座を実施し周知することができた。 【課題】 今後、募集要項の見直しや絵手紙講座開催時期について検討する必要がある。</p>	A	
2-2	ふるさと教育の推進	<p>・町民や特に次世代を担う子どもたちがふるさと「みたけ」に誇りを持つように、魅力ある催しや地域活動の展開を支援します。</p>	<p>【取組内容】 ・乳幼児期・幼保期・小学校期・中学校期と0歳から15歳まで繋がる家庭教育学級を推進した。 ・保健センターと連携し0歳児学級加入の促進を実施した。 【成果】 6/24に行った家庭教育学級合同講演会では、町内の中高生に託児ボランティアを依頼し12名の参加があった。事故やケガもなく乳幼児に親しみを持って触れ合える良い機会となった。 11/4に行った乳幼児家族学級では、町内の中高生30名のボランティアの参加があり学級生のサポートを行った。 【課題】 学級参加者の増加、父親の積極的な参加を図るために周知方法等を検討する必要がある。</p>	A	生涯学習課

方向性	単位施策	施策の内容	平成29年度実績		
			実施した取組内容と成果及び課題	評価	担当課
2-1	青少年の健全育成	・家族の絆を深めることができるように、家庭教育を継続的に支援します。	【取組内容】 ・各関係機関と協働し、すべての学級で一家庭一実践の取り組みを実施した。 ・11/4の中山道往来に合わせ、企画課やまちづくり課と連携し、生活学校などの協力を得て家族学級を行い、家族のふれあいの場を設けた。 【成果】 当日は約150人の親子が名鉄電車を利用して、御嵩駅や明智駅付近でのウォークラリーなどを楽しんでいただいた。なお、天候の急変によりウォークラリーポイントを減らす等、工夫して運営した。 【課題】 天候の急変の他、緊急時の対応マニュアル等の検討を行う必要がある。	A	生涯学習課
		・青少年が非行や犯罪に巻き込まれないように、自立心や社会性を育む体験活動などへの参加促進や社会参加の機会を提供するなど、青少年の健全育成を進めます。	【取組内容】 ・あいさつ運動・街頭啓発活動・大型店舗パトロールなど、青少年の健全育成活動を推進した。 ・平成25年度よりスタートした『おSUN歩あるきたい』を自治会等へ積極的に参加の呼びかけを行った。 ・郡PTAと連携して町民大会を同時開催した。 【成果】 『おSUN歩あるきたい』参加者数：H28末 544人→H29末599人 【課題】 郡PTA評議員会では、第3日曜日の翌日に青少年育成町民会議のあいさつ運動を実施している。健全育成の機運を高めるため、全町的にあいさつ運動が広がっていくように周知、啓発について検討する必要がある。		
2-2	人権の尊重	・町民一人ひとりが家庭や学校や職場、地域社会のあらゆる場面で人権を尊重して行動し、性別や出身地・国、文化的背景などの差別をなくし、みんなが共生する明るい住みやすい社会を築きます。	【取組内容】 ・人権擁護委員による保育園・幼稚園での人権紙芝居の上演及び小学校の人権集会へ参加するなどの人権教育活動や、人権擁護委員による町内企業での啓発活動をおこない、家庭への人権尊重に関する意識啓発につなげている活動をおこなった。 ・人権子育て講演会(6月)・ふれあい人権講演会(12月)、人権映画会(1月)を開催し町民の方に人権について考える会を開催した。 ・人権に関する住民意識調査を実施(町内在住の20歳以上の男女1,000人を対象)。この調査結果・意見を基礎とし「御嵩町人権施策推進指針」を策定した。	A	福祉課
2-2	男女共同参画の推進	・町民一人ひとりが固定的な性別役割分担にとらわれず、互いに尊重しあい、自分らしい生き方を実現できるまちを目指します。	【取組内容】 ・平成27年度に策定した御嵩町第3次男女共同参画プランにおける成果指標22項目と具体的な取組実績80項目についての調査を行い結果を取りまとめた。その結果を、庁内の推進会議および男女共同参画懇話会へ報告した。 ・懇話会委員による寄稿文の広報掲載(毎月)、男女共同参画週間の周知、人権講演会での啓発活動を通して、住民への意識啓発を行った。 【成果】 ・男女共同参画懇話会委員向けに「男女共同参画とまちづくり」をテーマとした講演会を実施し、10名の参加があった。 ・昨年度まで課題であった役員男性職員の育児休暇取得については、7名中4名が取得した。 【課題】 ・庁内の推進会議および男女共同参画懇話会にて発出された意見をヒントに課題解決とさらなる推進を図る必要がある。 ・御嵩町第3次男女共同参画プランにおける平成31年度の目標に対して、多くの指標・実績が順調に推移しているため、さらなる推進のためにサポートできる体制を整えていく。 ・住民への意識啓発にあたっては、SNSやケーブルテレビ等、より多様な媒体による周知を検討する必要がある。 ・男女共同参画に関する講演会の実施に際しては、より多くの来場が見込めるテーマの選出と告知を行う必要がある。	A	企画課
2-2	生涯学習の推進	・町民の心豊かな生活や生きがいがいづくりのために、地域の特性に応じた公民館活動の充実と、町民が気軽に参加することができ、世代間や他地域との交流ができる生涯学習の機会を充実します。	【取組内容】 公民館講座と公民館行事の支援ということで、4公民館の地域性と指導者の持ち味を生かした講座が展開された。 【成果】 地域の人材に加えて東濃実業高校の生徒を講師に迎えてパソコン講座や東濃高校生の作品展示など高校との連携ある取組ができてきた。 【課題】 今後、さらに地域の人材の確保や講座からサークルへの発展、東濃高校生の講師依頼ができる講座の検討をする必要がある。	A	生涯学習課
		・成熟社会を迎えている中で地域においてますます求められる、歴史文化の継承、環境、福祉、健康づくり、食育、地域産業、ボランティア活動などを学ぶ機会を充実するとともに、その経験を生かすことができる機会を提供します。	【取組内容】 住民のニーズに応える成人講座を展開した。 (各講座 全7回) 出席総数 765名 ・「御嵩を知る」男性10名・女性31名計41名 延べ186名 ・「大人の総合学習と英会話」男性4名・女性18名 計22名 延べ98名 ・「古典文学」男性7名・女性27名 計34名 延べ155名 ・「手作り工芸」女性23名 計23名 延べ136名 ・「いきいき健康」男性1名・女性33名 計34名 延べ190名 【成果】 講座内でグループを作り、そこに班長、受付、司会者、片付け係など一人一役を受け持つことで「してもらう講座」から「自分たちで取り組む講座」へ意識変化の兆しが見られた。 【課題】 今後の主体的な活動を生み出す組織的活動への発展について検討する必要がある。	A	
		・地域とともに、子どもが地域にふれあう機会を充実し、ふるさとへの愛着を育むとともに、地域づくりに必要な豊かな発想を持つ人材を育成します。	【取組内容】 地域の中で多様な経験や技能を持つ人材等の協力により、土曜日等に地域文化の伝承や農業体験学習や手話体験などの「地域子ども教室」を各公民館で開催し、豊かな創造性や人と環境にやさしい意識を育むための機会とし、子どもたちのより豊かで有意義な土曜日等の場とした。 【成果】 ・「上之郷公民館」 詩吟・尺八教室外 大人 16名・子ども 51名 ・「御嵩公民館」 田んぼの学校・和風作り他 大人 256名・子ども185名 ・「中公民館」 野菜塾・エコッキング他 大人66名・子ども 47名 ・「伏見公民館」 科学体験他 大人 65名・子ども 58名 ・「ダンクキッズ」 バスケットボール 大人 98名・子ども 268名 【課題】 今後も参加者への周知方法や確保の仕方、地域コーディネーターの設置、活動ボランティアの確保などが課題となっている。	A	

方向性	単位施策	施策の内容	平成29年度実績		
			実施した取組内容と成果及び課題	評価	担当課
3-1	地域自治の強化	・地域における防災や防犯、地域福祉、環境保全などの活動の必要性について自治会・町民の理解を促し、住民自治力を強化します。	【取組内容】 自治会活動に対し、自治振興報償費を交付し、活動の支援を行った。 【成果】 自治会連絡協議会を開催するなどして、地域自治会活動の連携や情報交換ができた。 【課題】 自治会未加入者が増加傾向にあり、加入促進の方策について検討する必要がある。	B	住民環境課
		・地域で防犯や防災などに取り組むためのコミュニティリーダーを育成するとともに、子育て支援や健康づくりなど町民が交流する機会づくりや、集会所の整備などを支援します。	【取組内容】 集会所の整備について、建設や改修に必要な資金の一部を補助することにより、集会所の充実を図った。 【成果】 平成29年度は、4自治会 364,000円を補助した。 【課題】 今後も集会所の耐震化等が進んでいくよう補助制度の周知、啓発を継続する必要がある。	A	
3-1	地域防災活動の推進	・地域が主体となって、地域の課題を把握して、みんなでより良い地域をめざすためのビジョンや計画づくりを支援します。	【取組内容】 平成24年度～28年度に認定した防災リーダーについては、フォローアップ研修を年2回開催し、より高いレベルでの知識・技能を身に付けてもらい、スキルアップを図った。 【成果】 「御嵩町防災アカデミー」を開講し、防災リーダーが26名誕生し、内18名が防災士を取得した。また、高校生を対象に防災アカデミーを開講し、防災リーダーが15名誕生し、内11名が防災士を取得した。 【課題】 防災リーダー会の役割・方向性を確定し、地域が主体となって行動してもらうにはどうすれば良いか検討する必要がある。	A	総務防災課
		・地域において自助、共助の意識を高めるとともに、自分たちの住む地域を守るためのハザードマップづくり、防災訓練などの取組を促します。	【取組内容】 防災訓練では、非常用持ち出し袋を各自持ち訓練に参加することを、「自助」の意識づけを図った。また、防災コミュニティセンターを新たな訓練会場として追加し、ボランティアセンター立ち上げ訓練等を行った。 【成果】 防災訓練の参加者が昨年度より100人程度増加した。 【課題】 防災訓練において、今後さらに参加者を増やし、いかに多くの自治会に参加していただくか検討する必要がある。	A	
3-1 3-2	地域福祉活動の推進	・誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、地域や社会福祉協議会、事業所、NPO、ボランティアなどと連携して、地域福祉の担い手の育成や生活支援などの地域福祉活動の充実を図ります。	【取組内容】 ボランティアセンターと行政との協力の強化を図った。 平成28年度に実施した御嵩町社会福祉協議会主催の生活支援活動の担い手講座の講義を受けボランティア育成に努めた。 【成果】13名が「ちょこっと支え合いサポーター」として活動した。 【課題】29年度の利用実績として、障がい者の利用がなく、一層の周知が必要である。	B	福祉課
			【取組内容】 社協・シルバー・スポーツ文化倶楽部・商工会・民生委員・ケアマネ等、各種関連団体で構成された協議体を設置し、現状や課題の検討を計3回実施した。 【成果】 全町的に高齢の方がどんなことを課題と感じているか、日常的にどんなことでお困りなのかを確認することができた。 【課題】 地区単位での第2層協議体の設置にむけた調整や住民へ周知する必要がある。また、高齢の方の課題を地区ごとに整理していく必要がある。	B	保険長寿課
3-2	高齢者福祉の充実	・高齢者や障がい者が住み慣れた地域や家で生活することができるように、適切な介護サービスや在宅福祉サービスの提供、介護予防や生きがいづくりの支援、個別の障がいに応じたケアなど、地域における包括的な福祉サービスを提供します。	【取組内容】 ボランティアポイント制度の開始 【成果】 21団体637人の登録があり、サロン等の憩いの場や演奏等の活動により、場を提供される高齢者はもちろん、ボランティアをする人たちの生きがいにもなっている。 【課題】 ボランティアポイントの利用者の拡大を含め、地域での介護給付の増加の歯止めになるような地域での活動の場の発掘や支援を行っていく必要がある。	B	保険長寿課
			【取組内容】 障がい福祉サービスの利用者に対し、ケース会議(町、相談支援専門員、障害福祉サービス提供事業者、本人による。)を行い、自立に向けた調整や生活支援を実施した。 【成果】 ケース会議を137回実施。 【課題】 高齢者は包括支援センターで相談支援が充実している。障害者は幼児期から高齢者まですべての年齢が対象となり、また知的・精神・身体など障害の程度によって支援体制が変わってくる。相談支援体制を充実させるため、また困難事例にも対応できる基幹相談支援センターを設置する必要がある。	B	福祉課
3-2	障がい者福祉の充実	・障がいについての町民の理解を促進するとともに、障がい者の就労や社会参加の拡大を図ります。	【取組内容】 ・就労移行支援のための相談にのり、社会参加の手助けを行った。 ・障害に関する住民意識調査を実施(手帳所持者等1,027人を対象)。この調査結果・意見を基礎として「御嵩町障がい者支えあいプラン」を策定。 【成果】 地域支援事業の社会参加助成補助金について随時窓口で説明を行い、472人に助成した。 【課題】 障害者が安心して社会参加・社会生活を営めるよう御嵩町障がい者支えあいプランに定められた地域生活支援拠点を整備する必要がある。	B	福祉課

方向性	単位施策	施策の内容	平成29年度実績		
			実施した取組内容と成果及び課題	評価	担当課
3-2	子育て支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> 子育て世代や高齢者、障がい者の身近な地域における生活を支えるために、地域に密着した生活支援サービスを充実します。 	<p>【取組内容】 子育て不安や子育ての孤立の状況の軽減を図り、日常の子育てを楽しく、安心して子育てができるよう、子育て相談や親子教室、出前保育等様々な支援事業を実施した。</p> <p>【成果】 核家族化や人間関係の希薄化、地域とのつながりのない家庭も多く見受けられ、子育て力が低下している現状から、ぼっぼかんへ来館することで、子育て情報の取得や保護者同志の交流が図られ、子育て支援のひとつとして役立っていた。 (平成29年度 ぼっぼかん利用者) 子ども 10,435人、おとな 8,715人</p> <p>【課題】 養育環境のリスク要因がある家庭へのアプローチが課題となっており、保健センターでの健診等で施設の紹介をするなどして、そのリスクを軽減するような策が必要である。</p>	A	福祉課
3-2		<ul style="list-style-type: none"> 多様な保育サービスの実施や子育て支援サービスを充実して、快適に子育てができるまちとしての魅力を高めます。 	<p>【取組内容】 ・多様な保育サービスとして休日保育、一時預かり保育、病児保育を実施した。 ・子育て支援サービスとしてファミリー・サポート・センターを運用した。</p> <p>【成果】 ・休日保育を延べ11人、一時預かり保育を延べ893人、可見市に広域委託している病児保育(可見さくら保育園、梶の木保育園)を延べ2人が利用した。 ・ファミリー・サポート・センターの利用が20回あった。また、保健師の赤ちゃん訪問時に配布したファミサポの無料券を活用しての利用が4回あった。</p> <p>【課題】 利用方法や子育ての悩みなど、相談体制の一元化、わかりやすい相談体制を検討する必要がある。</p>	A	
3-2		<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠から子育て期まで、途切れない支援と親に寄り添う支援を充実し、安心して子育てができるように努めます。 	<p>【取組内容】 子ども・子育て支援事業計画に基づき妊娠から子育て期までの途切れない事業を実施した。</p> <p>【成果】 支援が必要な子育て世帯に対しては、保健センター、要対協調整機関、保育園など関係部署が情報を共有しケース会議などを実施し、連携して対応することにより、子育て世帯に寄り添い、安心して子育てができる環境を整えている。</p> <p>【課題】 子育て包括支援センターの設置に向けた早期の設置、学童期へのつながり支援体制を強化する必要がある。</p>	A	
3-3	地域防災体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災計画の見直しを進めるとともに、防災情報の伝達体制の充実や防災拠点の充実など、町の防災体制を強化します。 	<p>【取組内容】 地域防災計画の見直しに向けて、県の改正内容などを入手し、改定案を策定中。</p> <p>【成果】 防災コミュニティセンターが完成し、災害ボランティアや支援物資の受け入れ拠点、消防団の活動拠点等、新たな防災拠点としての活用その他、筋力トレーニングの実施など地域の交流の場として活用している。</p> <p>【課題】 今後は、この防災コミュニティセンターをいかに有効に活用していくかが課題となっている。</p>	B	総務防災課
3-3		<ul style="list-style-type: none"> ・自治会単位で自主防災組織の創設を促すとともに、防災倉庫や資機材などの充実、防災リーダーの育成、防災訓練や避難行動要支援者の避難訓練などを進めて、地域主体の防災体制を強化します。 	<p>【取組内容】 ・自主防災組織活性化研修を6月に開催し、各自治会長及び防災組織の長を集め、防災訓練への参加や、防災施設を整備する際の補助金等について説明し、啓発を行った。 ・防災訓練において、要支援者の安否確認から避難訓練までを実施し、災害弱者への体制強化を図った。</p> <p>【成果】 防災リーダーの育成については、防災アカデミーを開催し、26名が新たに誕生した。</p> <p>【課題】 地域防災の中心となる防災士が不在となっている自治会の解消に向けた取り組みを検討する必要がある。</p>	A	
3-3	防犯活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における防犯力を高めるために、不審者情報の伝達を行うとともに、自主的な児童生徒の登下校時の見守り、防犯パトロールなどの活動の強化に取り組めます。 	<p>【取組内容】 ・各地区の地域安全指導員とともに各地区の見回りを行った。 ・児童生徒が登校する際には交通安全協会が見守りを行った。 ・町職員による青パトの巡回も実施し、様々な人々の協力により犯罪の抑止に努めた。</p> <p>【課題】 地域安全指導員を確保するため、自治会からの輪番制の導入について検討する必要がある。</p>	A	総務防災課
3-3		<ul style="list-style-type: none"> ・地域防犯環境の向上を図るために、防犯灯の設置の支援や「子ども110番の家」の充実を促します。 	<p>【取組内容】 自治会が防犯灯を設置する際の支援として、防犯灯設置補助金を交付することにより、設置の促進を図った。</p> <p>【成果】 防犯灯の設置実績104件</p> <p>【課題】 自治会からの設置希望数が多く、全ての要望に対応しきれないのが現状であり課題である。</p>	B	
3-3	交通安全の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全環境の向上を図るために、交通安全施設の整備や交通規則の見直しを要請します。また、誰もが交通事故の被害者や加害者にならないように、交通安全に対する意識を強く持つように啓発を強化します。 	<p>【取組内容】 交通安全協会や交通安全女性、可児警察署等と共に、交通安全立哨、啓発活動を実施した。 可児市防災安全課と連携をとり、交通安全に関する大会を開催するとともに、小中学生を対象としたポスター展なども実施し、交通安全の啓発に努めた。</p> <p>【課題】 今後、一人一人が交通安全を自分の事として、意識してもらうための手法について検討する必要がある。</p>	A	総務防災課

方向性	単位施策	施策の内容	平成29年度実績		
			実施した取組内容と成果及び課題	評価	担当課
3-4	スポーツの推進	<p>・町民が身近にスポーツを楽しむことができるように、スポーツ活動を推進する団体の支援や指導者の育成を充実するとともに、スポーツ施設・設備の計画的な維持管理を進めます。</p>	<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ活動を推進する団体への支援 <ul style="list-style-type: none"> 御嵩町(可児郡)体育協会への支援 町民ゴルフ大会(6/13) 準備及び当日の事務支援 ぎふ清流駅伝(10/15) 説明会兼激励会の開催、試走等補助 可児駅伝(12/10) 準備及び当日の事務支援 御嵩町スポーツ少年団への支援 団員登録、研修申込、会計等の事務支援 スポーツ交流会の開催支援(上小 5/16,7/11,11/7,12/12,1/16,2/13,2/27) ・指導者の育成 <ul style="list-style-type: none"> スポーツ推進委員の研修参加(7/1,9/2,10/28,2/10) ペアリング実技指導研修(あつと訪夢 12回(4/4~3/13)) 家族でチャレンジスポーツ(2/4) 海洋性レクリエーションボランティア指導員の育成(町新人職員) ・スポーツ施設・設備の計画的な維持管理(点検の結果、プール用男女シャワーの修繕を行った。) <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育協会支援:ゴルフ協会と連携し町民ゴルフ大会を開催、121人参加 ・可児郡代表チームがぎふ清流駅伝に参加した。(28位/27団体中) ・スポーツ少年団、体育協会の事務局をおき、補助を実施、側面的な支援を行った。 ・指導者の育成:役場新規採用職員8名を海洋性レクリエーションボランティア指導員研修(6/9~6/11)に参加させ育成を行った。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育協会、スポーツ少年団ともに、会員(団員)が減少傾向にあり、組織活性化のために新規会員(団員)を確保する必要がある。 ・B&G海洋センターをはじめ、社会体育施設の老朽化が進んでおり、長寿命化計画の策定とそれに基づいた改修・更新について検討する必要がある。 	A	生涯学習課
3-4	保健予防事業の充実	<p>・町民一人ひとりが生活習慣に注意するなど、健康づくり意識を高めるとともに、町民の健康づくりのための活動を充実します。</p>	<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疾病の早期発見、早期治療につながるよう、各種健(検)診の受診啓発活動を行い、健(検)診を実施した。 ・がん検診においては、がん検診受診率向上企業等連携協定を結び、受診につながるような声かけと資料配布を依頼し、受診率向上を図った。 ・健診後の相談・指導では、結果説明会等を受け、一人ひとりが生活習慣改善への取り組みを促すよう働きかけを行い、健康づくり意識の高揚を図り、生涯を通じて健康的な生活習慣を身に付けられるよう活動を展開した。 ・健康づくりのためテーマを絞り、飲酒量の適量や、病氣からみた健診の大切さを記事にし、ほっとみだけに掲載・周知した。 <p>【課題】</p> <p>40歳から74歳までの特定健康診査や子宮がん検診の受診率が低いこと、疾病予防の意識を高めるための工夫をする必要がある。</p>	A	福祉課
3-4	健康づくりの推進	<p>・若者から高齢者まで幅広い世代に対し、健康教育や健康相談を充実するとともに、心の悩みを抱える町民のサポートを行います。</p>	<p>【取組内容及び成果】</p> <p><保健師・管理栄養士による健康相談></p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的いきいき健康相談(57回開催)…延べ59人に対して実施 ・結果説明会(プレ健診・特定健診・すこやか健診事後)(計38回開催)…延べ322人に対して実施 ・骨粗しょう症検診結果説明(2回開催)…延べ179人に対して実施 ・乳がん検診(集団)当日の血圧測定と指導(4回開催)…延べ376人に対して実施 ・管理栄養士による栄養指導(64回開催)…延べ331人に対して実施 <p><健康教育(健康教室)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病(予防)教室(3回開催)…延べ39人に対し実施 ・運動教室(6回開催)…延べ89人に対し実施 ・健康教室(栄養)(3回開催)…延べ6人に対し実施 ・男性の料理教室(3回開催)…延べ17人に対し実施 <p><精神保健相談></p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉相談(111回開催)…延べ19人に対し実施 ・電話相談…延べ986件の相談を実施 	A	福祉課
3-4	健康づくりの推進	<p>・町内の健康づくりを推進するリーダーとして、健康づくり推進員を養成します。</p>	<p>【取組内容】</p> <p>年1回、講習会を実施している。また、年4回健康づくり推進員通信を発行し、健康づくりについての活動や情報を発信している。</p> <p>【成果】</p> <p>通信を通じ、健康づくりへの関心を高めている。</p> <p>【課題】</p> <p>健康づくり推進員の人数が減り、活動の存続が難しいため、平成30年度中に策定予定の健康増進計画等において今後のあり方を検討する必要がある。</p>	C	福祉課
3-4	健康づくりの推進	<p>・子どもが健やかに成長するために、母子や乳幼児期からの健康づくりを支援します。</p>	<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母子保健事業により母子や乳幼児期からの健康づくりを支援している。中でも、妊婦健康診査の助成(14回分)を行い、母子の健やかな成長、安全な妊娠・出産の支援を行っている。 ・乳幼児健診、育児相談、幼児相談などにより乳幼児の発達の不安や悩みの解消に努めた。 ・予防接種では、訪問や個別通知、広報などでお知らせをし、確実に実施できるよう支援している。 <p>【課題】</p> <p>療育が必要な子供が療育機関につながるよう体制の整備を行う必要がある。</p>	A	福祉課

方向性	単位施策	施策の内容	平成29年度実績		
			実施した取組内容と成果及び課題	評価	担当課
3-4	食育の推進	・町民の豊かな食生活を実現するために、学校・家庭・地域や地元農家などが連携して、安全な食の確保と食育を推進します。	<p>保育園編</p> <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園では食育計画に基づき、年齢に応じた食育目標を立て、自然観察(苗植・種まき・水やり・収穫)、食体験(金食・クッキング)を、地域の民生委員などと協力しながら進めた。また、毎月の管理栄養士による園訪問にて、給食を摂りながら園児たちに食に関する情報を提供した。 ・各教室や家庭教育学級などへ食生活改善推進協議会による地域での食育の推進を行った。また、新たに、地元の高校生に食育の授業を行い食に対する意識の高揚を図った。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食の大切さや必要性を年齢に応じ、園児たちに伝えることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健全な食習慣を園児のみならず、家庭にも波及させることができるよう工夫する必要がある。 <p>保健センター編</p> <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教室や家庭教育学級などへ食生活改善推進協議会による地域での食育の推進を行った。また、新たに、地元の高校生に食育の授業を行い食に対する意識の高揚を図った。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者に合わせた食の大切さや必要性を伝えることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続的に取り組むことにより、さらなる意識の向上や行動変容に繋がるように工夫をしていく必要がある。 	A	福祉課
4-1	おもてなしの充実	・町民と来訪者とのふれあいを通して、御嵩の魅力を伝えていくため、町民のおもてなしの心の醸成、案内・ガイドの人材育成ならびに交流・ふれあい体験の開催などを進めます。	<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民・商店のおもてなしの心の醸成となる事業の実施(2件) 4月～11月 宿の市 5月、10月 御嶽宿・伏見宿プランター寄せ植え ・来訪者へのおもてなし目線での整備等の実施(5件) わいわい館おもてなしイベントの開催 諸の木峠公衆トイレ設計 中山道歴史解説サイン製作(御嶽宿、伏見宿) 鬼岩公園内看板修繕(1か所) 観光パンフレット改訂版作成(みたけみつたび等) <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 来訪者目線で取り組むことにより、おもてなしという明確な目的が意識され、来訪者と心の通った交流に繋がっている。 外国人観光客数(わいわい館入館者):323人(前年比28人増) <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域でのおもてなしの心は向上傾向であるが、外国人旅行者への対応等において、地元の人材も活用し、観光の産業化に繋げていく工夫をする必要がある。 	A	まちづくり課
4-1	観光の魅力向上	・御嶽宿や伏見宿の保全・再生はもとより、地域の歴史や自然などの資源を改めて見直し、その資源を大切にしながら、町民、各種団体、事業者などが一体となって、新たな観光拠点の整備や特産品の開発・研究を進めます。	<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政及び各種団体による観光PR・ええもんPR等の実施(4件) 5月 かも1グランプリにて観光PR及びええもん販売・PR 6月 ささゆりまつりでのええもん販売・PR 10月11月12月 みたけのええもん等販売促進事業(大阪、三重、東京) 10月 可児才蔵PRイベント 12月 町イチ！村イチ！2017出店(東京) ・魅力向上の為に町民団体による事業の実施 5月、10月 加茂農林高校との寄せ植え体験交流(2回) 12月 御嶽宿さんさん広場景観修景作業(1回) 4月～3月 伏見ふれあい遊歩道整備 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町民、各種団体、事業者において観光の魅力向上の意識が根付き始め、前向きな活動の成果として、みたけのええもん認定数が2品増の合計18品となった。 ・新たな観光資源を活用したイベントを開催することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「みたけのええもん」の認定数も増えているが、この制度を利用して今後の特産品の開発等を発展させるには、生産者等で構成する自走していける組織の設立を考える必要がある。 	A	まちづくり課
4-1	地域振興イベントの開催	・「よつてりやあみたけ～夢いる街道宿場まつり～」や「みたけの森ささゆりまつり」など地域に定着したイベントをさらに盛り上げていくとともに、多くの人に御嵩町を訪れてもらえるよう、町民主体による様々な地域イベントの開催を支援します。	<p>【取組内容①】</p> <p>地域イベント支援の実施(5件)</p> <ul style="list-style-type: none"> 5月～6月 みたけの森花あるき(21日間979人参加、内町外923人※期間中の名鉄ハイキング参加者を含む) 8月 よつてりやあみたけ～夢いる街道宿場まつり～ 11月 中山道往来～なかせんどううおーく～(822人参加) 2月～3月 御嶽宿・伏見宿のひなまつり 4月～3月 エコピアガーデン <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みたけ花あるきについては名鉄ハイキングとの相乗効果により、前年の三倍近い参加人数となった。 ・各イベントの認知度も上がりつつあり、町外方の参加者が増加傾向にある。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光基本計画を推進するなかで、新たなプレイヤーの発掘や各主催者が自立・継続した開催ができるよう、後方支援をしていく必要あり。 <p>【取組内容②】</p> <p>地域づくり活動助成事業を実施(4団体)</p> <p>(竹炭工房うとう坂、御嵩町へぽ愛好会、みたけ落語会、ふしみこども食堂)</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各団体が助成金を有効活用し、地域づくりイベントなどが開催された。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各団体の自立(助成終了後も活動を継続してもらう)に向けた運営方法などについて専門家から助言を受けられる仕組みを考える必要がある。 	B	まちづくり課

方向性	単位施策	施策の内容	平成29年度実績		
			実施した取組内容と成果及び課題	評価	担当課
4-2	タウンプロモーションの推進	・町の地域イメージの向上および地域のブランド化を進め、総合的に町の魅力を高めていくことを目指して、タウン・プロモーションを展開します。	<p>【取組内容】 東京都内、大阪府内、三重県内においてプロモーション活動を行った。特に東京都内(東京ビッグサイト)で行われたJOIN主催の移住交流フェアに初めて出展した。</p> <p>【成果】 ・タウンプロモーションイベント来場者数(東京都、大阪府及び三重県:イベント会場総来場者数 59,919名) ・火気厳禁の会場もあったため、全ての特産品を持参することはできなかった。販売総額:125,570円(担当:まちづくり課)</p> <p>【課題】 ・都市圏にお住いの移住希望者の方々に御嵩町の魅力を紹介する反面、本音を聞かせていただくことが出来た。その声からは「体験したことがある場所にしか思い入れを作ること出来ない。体験プログラムは我々にとって大切な切っ掛けだ。」との声を受け、これから始めることではあるが、「知ってもらおう」以上に「感じてもらう」を主軸に移住希望者の受け入れ体制を構築していく必要がある。</p>	A	企画課
4-2	地域情報の発信強化	・まずは、様々な媒体を活用して、自然や歴史文化、地域産業など地域の魅力を積極的に町内外に情報発信します。	<p>【取組内容】 月に1度発行する町の広報誌「ほっとみたけ」における情報発信は勿論のこと、ホームページ、フェイスブック、ツイッターといったSNSを活用して、町の旬な話題、情報をタイムリーに発信した。また、FMらら、ケーブルテレビ可見、新聞など、各種媒体を大いに活用し、町の魅力を発信することができた。</p> <p>【成果】 歴史ボランティア「偲歴会」が紹介する御嵩の史跡などもモニターからは好評である。桜の開花状況など御嵩の今を伝える情報もSNSで紹介すると普段よりも反響があった。</p> <p>【課題】 行政用語をできる限りなくし、分かりやすい表現にできるよう、今後も継続して研究していく必要がある。</p>	A	企画課
		・総合的に地域の魅力を発信していく取組を通じて、より多くの人に「行ってみたいまち」、「住んでみたいまち」、「起業してみたいまち」と感じられる魅力あふれるイメージ形成を図ります。	<p>【取組内容】 空き家バンク、子育て支援情報、地域の催し案内等「岐阜県御嵩町移住交流・子育て応援ポータルサイト」を活用し、地方創生事業との関連性を深化させるため、新たなコンテンツを増やしながら随時情報を更新し、情報発信を行った。</p> <p>【成果】 空き家バンクも併せて掲載していることから、問い合わせを多数いただき、空き家情報として掲載している物件以外にもないかと中京圏にお住まいの方を中心に中間合せをいただいた。(相談件数:19件(窓口:2件、電話:5件、セミナー等:12件))</p> <p>【課題】 現在計画が進んでいる農業体験型宿泊施設の完成と併せて体験型プログラムの構築を他部署とも連携して地元の方々と考えていく必要がある。</p>	B	
4-3	工業団地の整備と企業誘致	・既存工業団地に工業用地を有する企業に対しては、工場の立地や拡張しやすい環境を整えとともに、新たな工業団地の計画を推進します。	<p>【取組内容】 ・御嵩町工場誘致条例の一部改正を行った。 ・岐阜県が行う工場用地開発可能性調査への情報提供を行った。 ・岐阜県より権限移譲を受けた工場立地法の届出等についての適正な運用を行った。</p> <p>【成果】 ・御嵩町工場誘致条例に基づく工場の指定申請はなかったが、奨励金交付を1件行った。 ・岐阜県が行う工場用地開発可能性調査にて、対象地区の調査が採択・実施され、調査報告を受けた。 ・工場立地法に基づく、緑地面積・生産施設面積変更等の届出を1件受理した。</p> <p>【課題】 ・今後奨励金に関する事務、工場立地法に基づく事務が増えることが予想されるため、適切な事務処理が行えるようにする必要がある。 ・対象地区は新規工業団地として実現の可能性が低いという調査結果となったため、別の候補地を選定し、以降も積極的に情報提供していく。</p>	B	企画課
4-3	将来につなげる農林業の推進	・林業基盤の整備、計画的な施策推進により、着実に森林の整備・保全を進めます。	<p>【取組内容】 ・森林保全活動を目的とした森林ボランティア「水土里隊」の活動基盤である隊員の技術支援に務めた。 ・林森林ボランティアの先駆者として、森林学習への協力をしている。</p> <p>【成果】 水土里隊の活動の幅が広がった。</p> <p>【課題】 ・森林学習の参加者は年齢層も幅広いため、豊富な学習メニューが用意できるよう各関係団体と検討する必要がある。</p>	B	農林課
		・地域営農組織、新規就農者の育成支援などにより、担い手確保を図りつつ、バイオマス利用、地産地消の推進、環境にやさしい農業など未来につなげる農業を展開します。	<p>【取組内容】 ・営農法人が合理的な営農を行っている。 ・学校給食に地元野菜を使用した。</p> <p>【成果】 補助メニューも活用しながら地産地消を進めることができた。</p> <p>【課題】 農業者の確保が十分でないため、人材確保について検討する必要がある。</p>	B	
4-3	魅力的な商業・サービス業の育成	・町民の暮らしに必要な店舗の確保、国道21号可児御嵩バイパスが近接した立地条件を生かした店舗などの誘致を促すとともに、町の魅力化・個性化につながる商業の育成を図ります。	<p>【取組内容】 ・御嵩町観光基本計画の推進 観光基本計画スタートアップシンポジウムの開催 観光基本計画推進会議(仮称)の開催</p> <p>【成果】 観光基本計画の推進のための中核的な役割を担うことが期待できる地域まちづくり会社が設立された。</p> <p>【課題】 各団体やプレイヤーがそれぞれに活動している。地域の活性化(まちづくり)に想いのある方々が連携し合っており、特産品の販売等、商業発展につながる新たな事業展開を行うための交流の場を提供する必要がある。</p>	B	まちづくり課

方向性	単位施策	施策の内容	平成29年度実績		
			実施した取組内容と成果及び課題	評価	担当課
4-3	起業支援と雇用機会の創出	・人材育成、創業支援などの取組を強化し、町の資源を生かして新たな事業に取り組んでみようという若者や女性を支援し、多様な雇用機会の創出につなげます。	<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創業支援事業計画の策定 ・小規模事業者経営改善資金利子補給(6件207,000円) ・御嵩町観光基本計画の推進 ・商工会青年部と役場若手職員との意見交換会 ・観光基本計画推進会議(仮称)の開催 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域まちづくり会社の設立により新たな雇用が創出された(1名)。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創業支援事業計画を策定したものの、起業支援となる具体的な施策がない。 ・観光の産業化にも繋がる新たな創業者への具体的な支援について検討する必要がある。 	B	まちづくり課
5-1	亜炭鉱廃坑対策の推進	・亜炭鉱廃坑の防災対策を進めるため、「南海トラフ巨大地震亜炭鉱跡防災モデル事業」を進めます。あわせて、継続的な防災対策が可能となるように国・県などへの要望を継続します。また、亜炭鉱廃坑対策の調査研究やハザードマップの更新に取り組めます。	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度からは、平成28年度国補正により措置された「南海トラフ巨大地震亜炭鉱跡防災対策事業」に取り組み、第1期①地区1.97ha、あゆみ館0.78haで防災工事に着手し、第1期②地区5.09ha、第2期地区4.31ha、第3期地区5.57haで地盤せい弱性調査を実施している。 ・亜炭鉱廃坑の調査研究は、引き続き取り組む。 ・亜炭層(空洞)深度分布図は、平成29年度に更新した。 	A	亜炭鉱廃坑対策室
5-1	消防・救急体制の充実	・消防の機能や体制の充実を図るとともに、消防団を中心とした地域防災力の強化を図ります。また救急体制の充実に努めます。	<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可児郡連合演習において、4地区消防団合同で訓練を実施し、消防署とも共同で訓練を実施することで、各団体間の連携強化を図った。また、各消防団が町の防災訓練だけでなく地域の消火訓練にも主体的、積極的に参加した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防力の強化は何より地域住民の協力が不可欠であるため、いかに住民の防災意識を高めるか、協力してもらえるかについて検討し、消防団員の確保、防災士の育成に努める必要がある。 	A	総務防災課
5-1	信頼できる医療体制の確立	・行政および地域の医療関係者相互の連携、広域的な連携を強化して、町民に迅速で適切な医療サービスを提供できる体制を確立します。	<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可茂地域病院群輪番制病院設備整備事業負担金、救命救急センター運営費負担金などを支出し、地域医療・救急医療を推進することにより、町民に対し適切な医療サービスを提供できる体制を整えている。歯周病検診では可児歯科医師会内の医療機関での検診が実施可能となった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内以外に可児医師会内の医療機関で検診等が実施できないか検討する必要がある。 	A	福祉課
5-1	治山治水対策	・森林・農地の保水機能を保持するとともに、山地崩壊・土砂流出を予防するための調査ならびに治山・砂防工事を推進します。また、水害防止のための河川改修などについても計画的に推進します。	<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・治山事業の事業主体である岐阜県と協力し、事業実施に向けて地元対策などを行った。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岐阜県が治山工事の要望箇所に着手した。平成30年度第1四半期で完成予定である。 ・永年の懸案であった林地災害箇所(測量)が岐阜県及び町とも完了し、治山工事に向けて岐阜県と歩調を合わせることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・治山事業の実施箇所数が岐阜県の予算によって変わるため、計画どおりに治山治水対策が進まない。 ・治山事業の対象外となる現場があり、地元対策に苦慮している。 <p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・井尻川護岸の危険箇所について応急的な修繕を実施した。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用地買収に目途がついた。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水害発生抑制のために早期に河川改修を進める必要がある、事業計画を立て、推進していく必要がある。 	A	農林課
5-2	地域文化の創造	・地域の伝統や個性に根ざした町民の自主的な活動を通じて、住民団体による新しい文化活動を推進し、「みたらしき」が感じられる地域文化を創造します。	<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(図書館) エントランスでの「ミニ展示」11回、「一般向け講座」5回、「親子向け講座」1回、「子ども向け講座」4回を開催した。また、毎月の定例行事として、絵本などの読み聞かせ、映画上映会を実施した。 ・(郷土館) 「特別展」1回、「企画展」2回、2階ロビーでの「ミニ展示」、「講座(陶芸教室・ウォーキング含む)」を開催した。そのほか、「文化協会作品展」、「御嵩町中学校美術作品展」、「御嵩町美術展」を5分野に分けて開催した。また、郷土資料等収集事業として、御嵩町出身作家の絵画等を購入した。 ・(竹屋資料館) 「ミニ展示」14回、「講座」6回、竹屋茶室を利用した「お茶会」4回を開催した。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館・郷土館・竹屋資料館の3館とも、魅力ある行事等を複数開催した結果、館全体の入館者数は図書館・郷土館64,221人(前年度比+6,089人)、竹屋資料館9,464人(+1,345人)へと増加した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの読書離れ、施設の老朽化などの要因も考えられるが、魅力ある施設づくり及び行事等の運営を開催していくことが課題としてあげられる。平成30年度についても、引き続き利用者の目線に立った施設の魅力アップに努めていく必要がある。 	A	生涯学習課
5-2	歴史文化の保全と継承	・本町は中山道の宿場町および願興寺の門前町として栄え、その時点から400年以上の歴史があります。こうした町の歴史文化、伝統が次の世代に継承されるよう、文化遺産の保存、伝統行事の継承を進めるほか、町民が歴史を学ぶことのできる機会を提供します。	<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成9年度より実施してきた「中山道」整備事業である「歴史の道整備活用推進事業」を経て、平成28年10月には、町内の「中山道」14.5kmのうち、3.6kmが国史跡として指定されたことを受け、今後の「中山道」の保存と活用についてを計画する「中山道保存活用計画」の策定に着手した。また、国重文「願興寺本堂修理」についても平成29年度から10年間に渡る事業として着手した。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別展「重要文化財 十二神将展」及び企画展「岐菴路安見絵図を辿って、電動アシスト自転車で中山道を走ってみた展」を開催し、町の文化財として重要案件である2テーマを取り上げた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでも、中山道みたけ館を拠点とした展示や講座等を通して周知を図ってきたが、今後も御嵩町の歴史的な財産である「中山道」や「願興寺」はもろろんのこと、町内に点在する文化遺産の保存、継承、活用に向けていく必要がある。 	A	生涯学習課

方向性	単位施策	施策の内容	平成29年度実績		
			実施した取組内容と成果及び課題	評価	担当課
5-2	景観の保全	・町の大きな魅力の一つである自然景観や田園景観など“みどりの景観”を、町民の誇れる財産として守り育てます。そのため、林業の計画的な施策や農地保全を進めるとともに、みどりを守り育てる住民団体の活動を支援します。	【取組内容】 ・森林法及び農地法等各種法規制により景観保持を行っている。 ・森林ボランティアの活動支援を行った。 【成果】 ・森林法及び農地法等各種法規制により景観保持がなされている。 ・4名の仮入隊者があった。内1名は正式入隊となった。 ・企業の森活動を支援できた。 ・物品の支給等の支援によりボランティア団体の活動を後押しすることができた。 【課題】 ・一般住民の参画を促す啓発活動を実施する必要がある。 ・森林ボランティア構成員の高齢化に関する検討が必要である。	A	農林課
5-3	公共交通の利用促進と体系の見直し	・鉄道事業者と協力して名鉄見線の利用促進を図ります。また、駅周辺での都市機能集積を促すとともに、バスや自転車、駐車場との連携強化を進めます。	【取組内容】 ・昨年度に引き続き、名鉄より企画きっぷを販売していただいた。 ・名鉄見線活性化協議会の補助制度を継続して実施した。 ・活性化協議会主催イベントや他イベントへの電車来訪特典事業を実施した。 ・活性化ニュースを5回発行し、情報発信に努めた。 ・利用促進大会、モニターツアーを開催した。 【成果】 ・企画きっぷ：471枚の購入があった。(H28年度比+96枚) ・補助制度：延べ859名・54団体の申請があった。 ・活性化協議会イベント：計794名(カレー太郎電鉄142名、ポスター作品募集359名、3市町を巡るモニターツアー63名、利用促進大会230名) ・電車利用特典事業：計870名(ささゆりまつり106名、よつりやあみみけ650名、環境フェア・環境フェスタ114名) ・通常の活性化ニュース(4回)に加え、名鉄見線利用が多い高校3校の生徒と協力して活性化ニュース特別版(1回)を発行した。 【課題】 ・企画きっぷ：地域外からの利用促進に効果があるため、積極的かつ多様なPRと他イベントとの組み合わせを考えて、販売数の増加に取り組む。 ・補助制度：地域内外の利用促進のため、工業団地の通勤者等への補助制度自体の周知を徹底する。	B	企画課
5-3	道路の整備と維持管理	・道路や橋、トンネルなどの構造物の適正管理と長寿命化により、安全・安心な道路環境づくりを推進するとともに、国道、県道を含めた幹線道路の改良・整備を促進します。	【取組内容及び成果】 ・橋梁長寿命化修繕計画に基づき、修繕工事(送木橋・木下橋)を実施している。 ・町内の橋梁について、平成29年度までに155橋の法定点検を実施した。 ・毎年、国・県との事業調整会議を開催し、主要道路の改良整備について要望を継続している。	B	建設課
5-3	地域環境の美化促進	・環境汚染防止のための監視体制を強化するほか、環境美化活動を推進します。また、空き家・空き地の適正管理を促すとともに、これらを活用した移住者の受け入れなど地域振興に生かします。	【取組内容】 ・監視による不法投棄の抑止力として、不法投棄パトロールをおこなった。 ・住民の方に町内一斉清掃、可児川クリーンキャンペーン等、環境美化行事への参加を促すよう回覧や広報で周知し、環境美化活動の推進を図った。 ・毎週日曜日に、不法投棄監視パトロールを実施し、不法投棄の防止、迅速な発見、不法野焼きの発見に努めた。 【成果】 5月に町内一斉清掃、10月に松野湖クリーン作戦、2月に可児川クリーンキャンペーンを町民に対して啓発をおこない、大勢の方にご参加いただいた。	A	住民環境課
			【取組内容】 危険な空家について、適切な管理をしていただくよう通知、訪問を行った。 【成果】 所有者による特定空家の自主解体が2件あった。 【課題】 特定空き家の所有者がいかにか危険な建物であるかを自覚してもらい、解体へ促すまでが、非常に困難である。	B	総務防災課
			【取組内容】 住民環境課による監視、総務防災課による適正管理指導を根気よく続けた。また、企画課にあっては空き家バンク制度の協力事業者(町内不動産業者)との信頼が深まり、空き家バンクの登録件数及び成約件数を増加させた。 しかし、町全体の空き家バンクに係る登録申請件数はまだまだ少なく、制度の内容を所有者によく理解していただく必要があったため、今年度は税務課と連携し、複数不動産を所有されている方に対して固定資産税の納付通知書等の発送時に空き家バンク制度のチラシを同封して送付した。 【成果】 空き家バンクの物件として登録された物件はこれまで総件数22件、成約件数は11件(その内平成29年度中の成約件数6件)。また、固定資産税の納付通知書等の発送時に併せて送付したことで、別にチラシを送付した時よりも安価に実施することが出来た。 【課題】 空き家バンク制度による登録物件の売買契約の成立は、物件の適正管理にもつながるため、当該制度を今後も推進していく必要がある。物件の有効活用の観点からも新たな周知方法を考え、実施していく必要がある。	B	企画課
5-3	都市公園等の維持管理	・都市公園である南山公園をはじめ、身近な公園や緑地の整備や適正な維持管理を推進し、緑豊かな憩いの場づくりに努めます。	【取組内容】 ・都市公園である南山公園は管理委託業務にて定期的な維持管理を実施するとともに、遊具は専門業者による年2回の点検及び職員による毎月点検を実施した。(点検結果に基づきローラー滑り台のローラー交換等を行っている。) ・必要に応じて修繕を行い緑地の整備や適正な維持管理を推進した。 【課題】 今後、遊具の維持管理・更新等を検討し魅力ある公園づくりに努める必要がある。	A	建設課
5-3	上下水道の整備と維持管理	・安全で安心な水を安定的に供給するとともに、生活排水処理施設の整備などに取り組み、環境保全に努めることで、衛生的で快適な生活環境づくりを推進します。	【取組内容】 ・長谷ポンプ場から長岡高区配水池までの送配水管更新事業を完了した。 ・平成29年度末をもって、老朽管改築事業(下水道長寿命化対策事業)を完了した。 【成果】 ・基幹上水道管の耐震化率向上に努めることにより、安定的に水を供給できるよう努めている。 ・下水道の整備促進に努め、老朽管改築事業による不明水対策の実施により汚水の地下浸透を防止し、衛生的で快適な生活環境の確保に努めている。	A	上下水道課